

2013年度 前期		リフレクションペーパー						
学科名	生物環境化学科							
科目名	分子遺伝学							
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	3年前期			
必修・選択の別	選択							
担当者	藤井政幸							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ DNA, RNAの化学構造を理解する。</li> <li>・ DNAからRNAへの転写過程の機構を分子, 原子レベルで理解する。</li> <li>・ RNAのプロセシング過程の機構を分子, 原子レベルで理解する。</li> <li>・ DNAからRNAへの転写制御過程の機構を分子, 原子レベルで理解する。</li> <li>・ mRNAからタンパク質への翻訳過程の機構を分子, 原子レベルで理解する。</li> <li>・ DNAの複製過程の機構を分子, 原子レベルで理解する。</li> </ul>							
日程と内容	<p>4月10日：第1週 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法、遺伝とは何か、遺伝子とは何か  4月17日：第2週 遺伝子の発見、遺伝子の構造説明、DNA、RNAの化学構造、DNA、RNAの二重らせん構造（演習）  4月24日：第3週 大腸菌におけるDNAの複製、DNAポリメラーゼの働き、不連続合成（演習、小テスト）  5月1日：第4週 DNAポリメラーゼを利用したDNA増幅技術（演習、小テスト）  5月8日：第5週 DNAの変異、変異原物質、相同組み替え（演習、小テスト）  5月15日：第6週 ポストゲノム研究としての遺伝子解析、最近のトピックス  5月22日：第7週 第1回中間試験：大腸菌のDNAの複製について  5月29日：第8週 大腸菌におけるmRNAの転写、RNAポリメラーゼの働き（演習、小テスト）  6月5日：第9週 真核細胞におけるmRNAの転写後修飾、リボザイム（演習、小テスト）  6月12日：第10週 mRNAの転写調節、ラクトースオペロン、トリプトファンオペロン（演習、小テスト）  6月19日：第11週 第2回中間試験：mRNAの転写について  6月26日：第12週 タンパク質の翻訳、遺伝暗号とトランスファーRNA（演習、小テスト）  7月3日：第13週 タンパク質の翻訳、アミノアシルtRNA合成酵素、ペプチジルトランスフェラーゼ（演習）  7月17日：定期試験（60分）  7月19日（補講）：第14週 遺伝子発現調節  7月24日：第15週 まとめ</p>							
成績評価基準	定期試験	50%	実技	0%	臨時試験	30%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	20%	計	100%				
授業到達目標の達成度	食品衛生管理士資格取得のための必修科目である。受講者85名、試験受験者数76名(89%)と昨年の92%をやや下回った。アンケートの感想欄には説明が分かりやすかったとの評価が多く、受験者76名中合格者48名、合格率も63%となり、昨年度の61%より受講者の理解度はやや向上した。							
反省点	合格者48名のうち80点以上の合格者は9名(19%)、60点台での合格者は33名(69%)と合格した学生はよく勉強してよく理解したが、ほとんど理解しなかった不合格者28名(58%)も多いた。昨年度までは穴埋め式問題を中心に出题していたが、試験の間に合わせに単に答えを覚えるだけの勉強となり、内容の理解には全く結び付いていないことが判明した。単なる試験のための暗記に終わることなく、内容を真に理解し、以降の専門分野の学習や研究に生かせる勉強を身につけさせる狙いで、本年度から記述式出題に変更したところ、急激に得点が低下した。真に本年度も2年生までの基礎学習が不十分な学生、学習意欲の低い学生に対する対策として、前週の講義内容の理解度をチェックするための小テストの点数が低い学生に対してはその翌週に再度の小テストを行いながら講義を進めた。それでも理解度を向上させるには十分な効果があったとは言えないので、来年度はさらに、それらの学生に対して毎回の復習課題を与えて理解を徹底させるよう工夫したい。また、単なる暗記に頼る勉強法を改めさせ、内容の理解に結び付く勉強法を身につけさせたい。							
授業評価アンケートに対するコメント	かなり多くの学生から「講義内容に興味を持てた」「説明が分かりやすかった」との評価を得たので、こういう感想がさらに多くなるように工夫したい。							
履修登録者数	85名	定期試験 受験者数	76名	合格者数	48名	合格率	63%	